

支援者の方言理解のために

坂喜 美佳

(担当者：坂喜・小原雄次郎・工藤千桜秀・青木佳世・小林隆)

1 はじめに

東日本大震災により、被災者が被災地域から避難し、支援者が被災地域へと駆けつける中で、方言に起因する摩擦やトラブルが発生する可能性がある。私たちは震災に伴って被災地域で生じる方言に関わる問題とそれを回避・解消するための方策を検討した。

2 方言の社会的問題

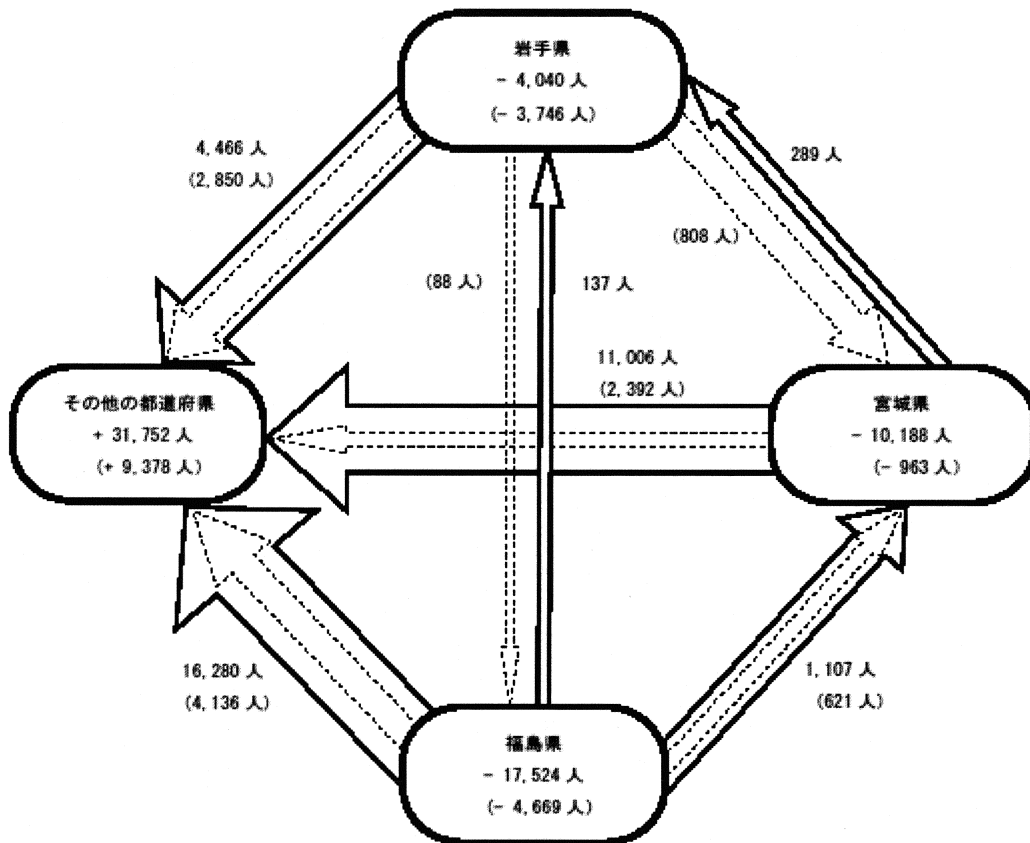
東日本大震災に伴い、支援者の被災地への流入と被災者の被災地からの流出という大きな二つの流れが起こっている。その流れに伴い、方言に関わる社会的問題が生じる可能性がある。以下では「①被災地において見られる方言の問題」と「②住民の避難に伴う方言の社会問題」に分けて、方言の社会的問題について考察する。

まず「①被災地において見られる方言の社会問題」について考える。大震災後、被災地には県内外から自衛隊や様々な救護隊、医療関係者、ボランティアが支援者として流入し、がれき撤去や医療活動に従事している。被災地の外から来た支援者が、被災地で活動に当たる中で、地域住民の使用する方言を理解できない、または誤解することによる問題が生じる可能性がある。ここで生じる問題は、活動内容の違い（医療・行政・がれき撤去等）や活動期間の違い（長期・短期）によっても質を異にすると考えられる。

次に「②住民の避難に伴う方言の社会問題」について考える。震災により家屋を失った・居住が不可能になった被災者が、被災地を離れて県内外へと、集団または個人で避難している。次ページ図1は総務省統計局による岩手県、宮城県及び福島県の3～5月期の転入・転出状況を示した図だが（住民基本台帳人口移動報告 東日本大震災の人口移動への影響 <http://www.stat.go.jp/info/shinsai/pdf/gaiyou.pdf>）、これを見ても被害の大きかった3県から3～5月期だけで3万人を超える人が他県へと移動していることがわかる。このような移動が起こると、被災者の用いる方言と、避難先で用いられる方言との違いから、コミュニケーション上の摩擦や偏見によるトラブルが起こる可能性がある。ここで生じる問題は、集団避難であるか個人避難であるか、避難先が隣接地域であるか遠方であるかによっても質を異にすると考えられる。

3 方言の社会的問題を回避・解消するための方策

前節で考察したように、災害時に起こる方言の社会的問題は、状況により多様に変化する。私たちは、これらの問題全てに対処しうる汎用的な方策を思案しつつも、「①被災地において見られる方



- 注1) ●内の数字は●内の地域の平成23年3～5月期の転入超過数である。(マイナスは転出超過)
 2) 矢印の数字は始点側から終点側への平成23年3～5月期の転出超過数である。
 3) 点線の矢印及び()内の数字は平成22年3～5月期の結果である。

図1：岩手県、宮城県及び福島県の転入・転出状況
 (平成22年3～5月期、平成23年3～5月期)

言の問題」を中心として考えることにした。その理由としては、「②住民の避難に伴う方言の社会問題」について考える際には、避難の形態、その人数、避難場所など避難先の全体的な状況を把握することが必要であり、それは現時点では困難であることが挙げられる。そのため、今回は「②住民の避難に伴う方言の社会問題」については断念することにした。この問題については、中長期的に取り組んでいかなければならない問題であろうと考える。

また、「①被災地において見られる方言の問題」を考える際にも、被災地においても過度なストレスを負っている被災者に対して調査を行うことは、さらに精神的な負担をかけることになるため、今後その方法を慎重に検討することにして、今回は行わなかった。このため、今回は被災地での支援者に関わる社会的問題について考えることとし、被災地で起こっている方言の社会的問題に対する、現時点で実現可能な具体的な策を提出することにした。

4 先行研究

被災地での支援者に関わる方言の社会的問題について、具体的な対応策を考えるため、関連する先行研究に当たった。しかし、災害等に伴う方言の問題や、ボランティアと方言についての先行研究は、管見の限り見つからなかったため、現段階で比較的研究が進められている、医療と方言に関連する先行研究を参照した。医療に関わる支援者も多く滞在していると考えられ、また、ノンネイティブとネイティブの関係についても取り扱っているテーマであり、現在の被災地の状況との類似点が多くあると考えられるからである。

(1)日高(2007)「福祉社会と方言」

日高氏は、医療等の現場において、「方言」は自分にとって思いをいちばん詳細かつ的確に表現できるものであり、特に高齢者ほど、またせつば詰まったときほどそうなりやすい、と述べている。そのような認識に立てば医療等の従事者が「この地域でしばしば聞かれる代表的な方言については、ひととおりその意味やニュアンスが理解できるようになろう」という心構えを持つことが大切であると、日高氏は述べている。

その際の注意点として、「地元出身でない場合は方言を無理に使わないこと」「方言には地域差と年代差があることを常に意識すること」とも述べている。

また、患者・家族たちの発言に方言が出やすいのは、①感覚・感情表現に関する語、②身体部位を表す語、③怪我や病気を表す語、④症状・動作などを表す語、であり、「各語彙にはその語と組み合わせがよく使われる言い回しや言い方を添えて、できるだけ具体的な用法がわかるようにする」ということが必要であるとも述べられている。

(2)今村他(2010)「医療・看護・福祉現場における方言教育」

今村他(2010)の研究では「ノンネイティブの医療・福祉従事者が患者・施設利用者の話す方言が理解できないために、訴えを理解できずに事実そのものを取り違えたり、意思疎通・コミュニケーションが円滑に進まない事例がある。」と述べられているように、被災地へ入った医療関係者やボランティアと被災者がトラブルに陥ることは十分にありうることだと思われる。

この問題は、互いに共通語を話せば解決するというわけではない。たとえ共通語を話しているつもりでも、「気づかれにくい方言」を用いている場合があるという。津軽弁には「コマル（前屈みになる）」という方言があるが、治療や洗髪の際など医療・福祉従事者に「コマってください」と言われても、津軽弁以外の話者である患者は意味が分からず文字通りに困ってしまうという。

(3)今村(2011)「医療と方言」

今村氏は医療現場で方言が果たす役割としては、①医療者側が患者の症状や状態について認識する「いつから・どこが・どのように」というような「事実認識」に関わる場合や、②医療者から患者への「情報伝達」に関わる場合という、意味の伝達のレベルと、③医療者が患者との関係性を構築するための「コミュニケーション手段」として用いる場合、という配慮のレベルがあると述べている。

③コミュニケーションとしての方言の役割について注目すると、コミュニケーションのスタイル

そのものの地域差について考慮することが必要であると述べている。例えば、敬語の運用や、「痛くないですか?」のような否定疑問文での問いかけに対して、痛くても痛くなくても「はい」にあたる肯定的な表現形式を用いる地域と「いいえ」にあたる否定的な表現形式を用いる地域が存在することを指摘している。そうした地域差があることに医療関係者が気付いていないのが現状である。

(4)山浦(2011)「医療の現場とことば」

著者は医者であると同時に『ケセン語大辞典』(岩手県気仙地方の方言辞典)の編者であり、地方医療に従事した経験から、方言の有用性や、方言によってもたらされる誤解について、ケセン語の具体例をもとに述べている。

方言が診断の役に立つと例として、方言の表現の豊かさを挙げている。ケセン語などの方言には身体部位表現や病名・症状名、擬態語が豊富であり、身体部位表現によっては患者が標準語名を知らないこともある。また、多彩な擬態語によって診断のあらましが分かると述べている。

方言が誤解を招く例として、ケセン語では「昨日の夜」が昨夜ではなく一昨夜を示すことや、否定疑問「頭が痛くないか」に対する返答が、英語と同様に、「はい(痛い)」・「いいえ(痛くない)」となることがあり、標準語の形式と混在している点を挙げている。

また、方言を使うことで対等の人間同士の交わりがしやすくなると述べる一方、方言には敬語の体系が複雑に発達しているものがあり、しっかり覚えないと品位を欠くこともあると述べている。

以上の文献から、方言には「詳細な意味の伝達」と「コミュニケーション手段」という重要な役割があることが確認された。しかし、医療従事者の方言の使用に際しては、日高(2007)は「地元出身でない場合は方言を無理に使わないこと」を注意点として挙げているが、山浦(2011)は「方言を使うことで対等の人間同士の交わりがしやすくなる」と述べている。その点は慎重な判断が必要である。

これらの医療と方言に関わる先行研究から、やはり支援者が被災地に流入する時には、何らかの方言に関する問題が起こることが予想される。そのような問題に対する解決策として、方言を理解してもらうために何かをしようと考えた。震災という緊急時であり支援者向けの方言解説冊子を作るなど時間の要すものは作成できない。方言講座を開こうにも支援者が各地に散らばっていることから困難である。そこで、支援者と被災者のコミュニケーション手段になるような、簡単な方言を記載したパンフレットを作成することにした。

具体的な被災地としては、過去に当国語学研究室の方言調査でご協力をいただいた気仙沼市を例に挙げる。パンフレットの作成手順としては、事前に気仙沼方言の特徴を捉え、次に現地でインタビュー調査を行い、それを元にパンフレットの形にしていく、というものである。

5 事前調査：気仙沼方言の特徴

気仙沼での調査を行うにあたり、方言の特徴に起因する社会的問題をある程度予測するため、方言区画上での宮城県の位置および宮城県方言の特徴について加藤(1992)等で確認した。以下の a~d は、それを簡単にまとめたものである。

a. 気仙沼方言の宮城県内における位置

宮城県は、全県下ほぼ等質の方言が用いられているが、アクセントが無形か有形かによって大きく南北に二分するのが妥当と考えられる。さらに、それらの中の小区画は、語彙や文法の一部の境界として、県北半を海岸の①と内陸の②に、県南半を仙台付近の③と南方の④とに分けられる。しかし、語彙分布に関しては仙台圏や県中央では消えてしまったものが、①や②の西北端の山間部と④の南端の山地に共通のものが残存分布している場合もあり、やはり県内方言の南北分割は難しく、歴史的・地理的一体性を認めざるを得ない。宮城県の方言には、県方言の特質性を指摘できる。

県北半方言	{	①三陸沿岸、北上川以東
		②県北の内陸および石巻市付近
県南半方言	{	③仙台市付近、松島町、黒川郡から名取郡・岩沼市・川崎町まで
		④阿武隈川河口以南、白石市付近

b. 音韻

- ・イ段音はウ段音に、ウ段音はイ段音に近く聞こえる。いわゆる「ズーズー弁」である。
音が近いが一応区別があるもの：キとク、ニとヌ、ヒとフ、ミとム、リとル
区別がなく後者に統合されるもの：シとス、ジとズ、チとツ、シュとス、ジュとズ、チュとツ
- ・母音単独のイとエは区別がなく、エに統合されている。
- ・連母音のアイ・アエに当たるものは融合して[e:]となるが、エイは[e:]で区別される。
- ・拗音キャは[kija]のように割って発音される。
- ・ユに関する拗音がイ段の直音に発音される傾向がある。
例) キュ→キ、ニュー→ニ
- ・カ行・タ行は有声音に挟まれると有声化し、ガ行・ダ行のように聞こえる。
例) 「開ける」→「アゲル」、「的」→「マド」
- ・キの音の口蓋化が極端で、チに近く聞こえることがある。
- ・セの音がシェよりもヒエに近く聞こえる。
- ・拍(モーラ)方言である。
- ・無型アクセント地域である。

c. 文法

- ・意志・推量の助動詞「ベー／ッペー」
例) 読ムベー、降ッペー、見ッペー、来ッペー
- ・丁寧の助動詞「ス」
例) 行きス
- ・断定の助動詞「ダ」の丁寧形は「デガス」

- ・過去・完了の助動詞「タ」は共通語よりも用法が広く、現在目の前にあることの確認にも使われる
例) 居タ (今ここにちゃんと居る)、来タ (今来つつある)
- ・回想・大過去の「タッタ」:
例) 居タッタなあ (過去の思い出)、その前からちゃんと居タッタ (大過去)
- ・格助詞「サ」はへ格の全部と、ニ格の一部に対応する。
例) 机の上サ置く、*机の上サある、遊びサ行く、*夜中サ目が覚めた
- ・間投助詞「シャ」の多用
例) そしてシャ、行ったらシャ
- ・終助詞「チャ・ベッチャ」強調・当然・働きかけ
例) 行ったッチャ、だめだベッチャ

d. 語彙など

- 「オチル」 (降りる) 「ナゲル」 (捨てる)、「セツナイ」 (うるさい)
「キマリ」 (終わり) 「コワイ」 (疲れた)、「ワカンナイ」 (だめだ)

6 気仙沼市インタビュー調査

次に、気仙沼市に来られている支援者の方々へのインタビュー調査を行った。調査概要は以下の通りである。21名の支援者から回答をいただくことができた。

調 査 日 : 2011年6月18日

調 査 場 所 : 気仙沼市役所・気仙沼ボランティアセンター・気仙沼市総合体育館
気仙沼高校体育館・面瀬中学校体育館

回 答 者 数 : 21名 (男性10名・女性11名)

支 援 内 容 : 市役所職員7名、介護師5名、保健師4名、ボランティア5名

出 身 : 栃木県、群馬県、東京都、神奈川県、新潟県、奈良県、兵庫県、広島県

調 査 方 法 : あらかじめ作成した調査票 (資料1) を元に、質問事項を確認するインタビュー調査を行った。インタビュー結果の詳細については資料2参照。

調査の結果、資料2からわかるように、発音の聞き取りにくさや、意味の分からない動詞があること、端的な言語行動など、会話が難しいという訳ではないが、困ってしまうと言うことは多々あるようだということが分かった。これらの意見を取り入れつつ、聞き取りにくさや、分からない動詞の解説などをパンフレットに盛り込むことにした。



気仙沼市役所



ボランティアセンター

7 方言パンフレット作成上の注意点

次に、気仙沼で行ったインタビュー調査の結果をもとに、パンフレットの作成に取り掛かった。パンフレットの対象である“支援者”には、看護師・保健師からボランティアまで幅広く射程にいられた。そのためパンフレットの内容は、気仙沼方言に関する基本的な解説を中心に、各職業上の専門的な内容も加えることにした。また、地元の人とのコミュニケーションに役立ててもらえるような挨拶表現も追加した。記述に当たっては、一般の人にも理解できるように専門用語は使わず、平易な言葉で説明するように心がけた。また、見やすさや親しみやすさを考慮して、可能な限りイラストも入れた。以下ではパンフレットについて具体的に述べる。

まず、気仙沼方言の特徴として「発音」、「文法」、「間違いやすい単語」の三項目で説明した。「発音」の項目では、いわゆるズーズー弁の特徴、有声化、鼻音化、口蓋化について解説した。これらの項目を挙げたのは、インタビュー調査でも多くの支援者から、聞き取りにくいとの回答を得ていたためであり、また、ある支援者からは、音声上の特徴を事前に知っていれば良かったとの声も聞かれた。「文法」については、格助詞の「サ」、意志推量の「ベ／ッペ」、指小辞の「ッコ」を扱い、できるだけ文章による解説を避け、例文で示すようにした。「間違いやすい単語」の項目では、共通語と語形が似ていて、使用頻度も高い「ナゲル」、「ダカラ」、「コワイ」、「ワガンネ」を挙げた。この項目を設けたのは、これらの方言が共通語と類似した形をしているために、却って誤解を招きやすいと考えたからである。

さらに、支援者が積極的に使うことのできる方言として、挨拶表現を挙げた。支援者が方言の積極的に用いるべきかどうかについては、先行研究においても意見の分かれていたところである。今回は、利用しやすく、間違った使い方をしにくいであろうと考えられる、挨拶表現に限定して掲載することにした。

また、看護師や保健師向けには、菅原(2006)に基づき、人体呼称図と病気や気分を表す語を提示した。ボランティア向けには、活動で用いる道具の方言名称を載せた。

作成したパンフレットの草案は気仙沼市の関係各所に送付し、チェックしていただき、コメント

をいただいた。指摘された内容を反映させ改訂し、最終版(資料 3)を 5000 部印刷した。印刷完了後、気仙沼市役所、ボランティアセンター、三陸新報社、観光案内所、避難所となっている総合体育館、気仙沼高校体育館、気仙沼中学校体育館、市民会館、支援者の方が泊っているホテル等に配布した。

8 今後の課題

パンフレット配布時には支援者や地元の方から「こういうものがあると助かる」という声が聞かれた。方言の正確な理解とまではいかななくても、支援者と被災者のコミュニケーションの手がかりとなり、少しでも方言による社会的問題を取り除くことができれば幸いである。今回作成したパンフレットの中には、パンフレットに対する意見・感想を集めるためのアンケートを挟んだ。このパンフレットの有用性はそのアンケート結果によって明らかになるであろう。現時点でも各所から連絡があり、「今度被災地へ行くのでパンフレットが欲しい」「もっと多くの方言を取り上げてほしい」、他の地方から「参考にしたい」等の声も聞かれた。これらの反応から、方言の正確な理解に役立つとまではいかなくとも、被災地でこのようなパンフレットを作成することは有用であり、実際に方言研究が被災地で役に立つことを示すことができたと言えるであろう。

今回の試みでは、支援者のニーズをもとに原案を作成し、地元関係者の意見や感想を取り入れて改訂を行った。つまり、被災地での実用性を重視しつつ、地域住民の感情や方言意識に十分配慮して作成を進めたのである。人々の交流にパンフレットを役立ててもらうためには、支援者と地域住民の二方向からのフィードバックが必要である。今後は更に内容で改善すべき点を検討していくとともに、この試みが一つの見本となり、気仙沼だけではなく他の地域でも実現可能であるかを考えていくことが今後の課題として挙げられる。

文 献

今村かほる・岩城裕之・工藤千賀子・友定賢治・日高貢一郎(2010)「医療・看護・福祉現場における方言教育」『日本語学会 2010 年度秋季大会予稿集』

今村かほる(2011)「医療と方言」『日本語学』30・2

加藤正信(1992)「宮城県方言」平山輝男他編『現代日本語方言大辞典』明治書院

菅原孝雄(2006)『けせんぬま方言アラカルト 増補改訂版』三陸新報社

日高貢一郎(2007)「福祉社会と方言の役割」小林隆編『シリーズ方言学 3 方言の機能』岩波書店

山浦玄嗣(2011)「医療の現場とことば」『日本語学』30・2

医療・介護と方言 研究プロジェクト(<http://ww4.tiki.ne.jp/~rockcat/hoken/index.html>) (2011/09/25 アクセス)

総務省統計局・政策統括官(統計基準担当)・統計研修所「東日本大震災関連情報—総務省統計局・政策統括官(統計基準担当)の統計調査等関連の取り組み(<http://www.stat.go.jp/info/shinsai/index.htm>) (2011/09/25 アクセス)

震災時の方言アンケート

No.	お名前	ご出身地	性別	年齢
			男・女	
援助の内容				
援助の期間(いつから・何回目)		東北に来たことは	初めて・ある	

A.具体的なエピソード

地元の人と会話する機会はあるか
 どんな人と話をしたか(お年寄り、若者etc)

B.具体的なことばについて

東北に来て知った・おもしろい・わからなくて困ったことば
 最初はわからなかったが、わかるようになったことば
 実際に使ってみたか、使った時の地元の人の反応は

C.言語行動全般について

この土地の人の特徴はあるか
 自分の地元の人とこの土地の人で違いを感じるか

調査者:

調査場所:

資料2 インタビュー調査結果

場所:気仙沼市役所	回答内容: <ul style="list-style-type: none"> ・話すスピードがかなり速い。 ・気仙沼職員として名乗るので、気仙沼の人と思われて向こうのペースで話される。しかし意思疎通ができない程度ではない。 ・サ行の名称が聞き取りにくい。 ・「しびたち(鮎立)」を「すびたち」という。 ・地名の読み方が難しい上に聞き取れない。 ・地名の一覧表はあるがすぐに探し出せない。
出身地:東京都江戸川区	
性別・人数:男性2名	
期間・日:6/6～6/20	
仕事内容:地元の人と電話で対応(高齢者が中心)	回答内容: <ul style="list-style-type: none"> ・「しびたち」を「すびたち」という。 ・接続詞をあまり使わない。名詞と動詞しか使わない。 ・端的で単刀直入。 ・聞き取りにくいわけではない。 ・あれはこうだ、ああだと言った話し方をする。
場所:気仙沼市役所	
出身地:長野県東御市	
性別・人数:男性1名	
期間・日程:6/7～6/21	回答内容: <ul style="list-style-type: none"> ・何を言っているかわからないが文脈から推測すれば大丈夫。 ・「〇〇さんもあそこにはまっていますよね」と言われ、「はまる」が分からなかったが、「配置する」の意味か? ・発音とイントネーションが違うが意味が伝わらないと言うまでではない。「ありがとう」のイントネーションが違う。被災者の心情を考えると相手のイントネーションに合わせたほうがいいと考える。「コ↑ンニチワ・シ↑ヤクショデスー」とイントネーションをまねたことはあるが、方言をまねたことはない。 ・語尾に「さ」をつける。(格助詞の「さ」・終助詞の「さ」) ・「ぼうっこ」「ひもっこ」と言われた時、相手が紐を持っていたのでわかった。 ・ぼん！と飾り気のないことをぼと言うのでこちらで補足することがある。「AはBだ」のように、窓口で用件をぼんと投げかけられる。 ・こちらに来て「がんばろう」を「がんばっぺし」というと知った。 ・関西弁よりも入りやすい。
仕事内容:民間の仮設住宅に関する電話対応(若い人が中心)	
場所:気仙沼市役所	
出身地:東京都江戸川区	
性別・人数:男性4名	回答内容: <ul style="list-style-type: none"> ・早口でぼそぼそしゃべるが失礼になるので聞き返さない。 ・炊き出しなどで一緒に活動していると二週間ほどすると慣れてくる。 ・地元の人が少ないフレーズでゆっくり話してくれるようになる。 ・「なげる」が「捨てる」だと最初は分からなかった。 ・年配の方には聞き返すことが申し訳ない。 ・年配の方はズーズー弁の語尾。 ・話し方がフレーズに区切れるというよりは流れるように話す。「～～だしー」 ・フレーズなので単語を聞き取れない。 ・語尾に至るまでが分かりにくい。 ・特に男性の声が低くて聞き取りにくい。 ・くぐもっている。口の開き方が小さい。 ・地元の人同士の会話は早くて分からない。 ・地元の人でも男女差や地域差があるようだ。山の方はおだやかで優しいが、漁業関係者は声が大きくあらくて通る。 ・どうぞどうぞといった家族的な優しさではなく、気持ちのサービス。懐に入ると気を使わなくていい。
期間・日程:不明	
仕事内容:保健課の窓口、高齢者対応	
場所:ボランティアセンター	
出身地:広島県	回答内容: <ul style="list-style-type: none"> ・早口でぼそぼそしゃべるが失礼になるので聞き返さない。 ・炊き出しなどで一緒に活動していると二週間ほどすると慣れてくる。 ・地元の人が少ないフレーズでゆっくり話してくれるようになる。 ・「なげる」が「捨てる」だと最初は分からなかった。 ・年配の方には聞き返すことが申し訳ない。 ・年配の方はズーズー弁の語尾。 ・話し方がフレーズに区切れるというよりは流れるように話す。「～～だしー」 ・フレーズなので単語を聞き取れない。 ・語尾に至るまでが分かりにくい。 ・特に男性の声が低くて聞き取りにくい。 ・くぐもっている。口の開き方が小さい。 ・地元の人同士の会話は早くて分からない。 ・地元の人でも男女差や地域差があるようだ。山の方はおだやかで優しいが、漁業関係者は声が大きくあらくて通る。 ・どうぞどうぞといった家族的な優しさではなく、気持ちのサービス。懐に入ると気を使わなくていい。
性別・人数:男性1名	
期間・日程:2週間	
仕事内容:資材班ボランティア	

資料2 インタビュー調査結果

場所:ボランティアセンター	<p>回答内容:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元の人はマスクをしているので声がぼそぼそしていて聞き取りにくい。 ・年配の人の方言はさっぱりわからない。 ・機材の名前が異なるが覚えれば大丈夫。 ・一輪車を「ネコ」という。 ・パールを「バリ」という。「バリ追加で」と言われると分からない。 ・レーキを「クマデ」という。手かぎのことを「ノンコ」という。 ・普段使わない道具ほど呼び名が違う。
出身地:栃木県	
性別・人数:男性1名	
期間・日程:不明	
仕事内容:資材班ボランティア	
場所:総合体育館	<p>回答内容:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今は落ち着いているので教えてくれるけど、(住民同士が)もめているときは聞き取れない。 ・方言で話されて理解できず、足の先が曲がっていることをわざわざ足を出して見せてくれた。 ・つられてこちらも同じアクセントを用いることもある。 ・「おはようございます」と言うと、「おはよう」と返してくれない。「違うところに来たんだな」と思う。 ・朝に職員が「おはよう」と言うと、地元の方は「今日ははやいねー、今来たのー」といきなり本題に入る。 ・方言が分かりにくいということはない。
出身地:神奈川県横浜市	
性別・人数:女性1名	
期間・日程:4日目	
仕事内容:介護師	
場所:総合体育館	<p>回答内容:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉尻がわかりにくい。 ・声がこもる。なんとなく推測して聞く。 ・体の部位は手で示せるので問題はない。 ・歯が抜けている方のしゃべり方。ngaのような。 ・100のうちおっしゃっていることの60~80いかないくらいは分かる。聞き返さなくても話分かる。 ・話すテンポが速い。 ・ズーズー弁が聞き取りにくい。 ・ヒガシになる(前もって知っていれば良かった)。
出身地:奈良県	
性別・人数:女性1名	
期間・日程:5日目	
仕事内容:介護師	
場所:総合体育館	<p>回答内容:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・口の動きの様子、口の動きを観察した。 ・「がんばっぺ」を使ってみた。 ・単刀直入で飾り気がない。 ・分かりやすい。回りくどい言い方をしない。自分の思いを述べる。 ・「～サ」の意味が分からない。語尾に「～サ」がつく「イクデバサ」をよく聞く。 ・ぱっぱと単刀直入に言う。「どんなん？」と聞くと一言で答えてくれる。 ・会話が分かりにくい。
出身地:兵庫県神戸市	
性別・人数:女性1名	
期間・日程:10日目	
仕事内容:介護師	
場所:総合体育館	<p>回答内容:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ツグ」の意味が分からない。前後から推測してなんとか分かった。 ・「かまってくれるな」という人もいれば、よくしゃべる人もいる。「おかわりないですか」と聞くと地元の人には「いやない」と答えて会話が簡単に終わる。
出身地:広島県	
性別・人数:女性1名	
期間・日程:4日目	
場所:総合体育館	<p>回答内容:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・六割くらいしか理解できないが、聞き返せない。 ・親しくなると方言が早い。早口になってなおさら分からなくなる。 ・「しんどい」「～はりましたか」など関西の言葉を口に出してしまっ、慌てて言い換えることがある。 ・相手にも気を遣わせていそう。 ・思わず「イガッタ」と叫んだ(その土地のことばがうつった)ことがある。
出身地:奈良県	
性別・人数:女性1名	
期間・日程:4日目	
仕事内容:介護師	

資料2 インタビュー調査結果

場所:面瀬中学校体育館	回答内容:
出身地:奈良県	・聞き取りにくい。文脈でだいたいわかる。分からなかったら聞き返すことがある。
性別・人数:女性2名	
期間・日程:4日目、5日目	・若い人には方言が全然見られない。
仕事内容:保健師	・救急車が「チューチューシャ」になる。 ・「あかさたな」発音の行が違う。 ・子どもたちを「ワラシコ」と言う。 ・発音が分かりにくい。 ・聞き取りにくいのは、高齢ないし疾患のせいなのかもしれない。 ・特に医療で分からない言葉はない。 ・「ナゲル」はまだ聞いたことがない。むしろ自分たちは「ホカス」と言う。
場所:ボランティアセンター	回答内容:
出身地:奈良県	・「お世話さまです」がいい言葉だと思う。
性別・人数:男性1名	・意外に共通語を使う。
期間・日程:3日	・おっとりしていて、関西のノリについていけるので違和感はない。
仕事内容:ボランティア(泥上げ)	
場所:ボランティアセンター	回答内容:
出身地:神奈川県	・「なげる」は、最初は分からなかった。
性別・人数:女性1名	・考えると分かることが多い。そこまでひどくなかった。
期間・日程:5日(2回目)	・丁寧だ。
仕事内容:ボランティア(廃材の移動・材木を切る)	
場所:ボランティアセンター	回答内容:
出身地:群馬県	・ほとんど聞き取れないが、なんとなく分かる。
性別・人数:女性1名	・早く感じる。
期間・日程:10日目(3回目)	・ズーズー弁は特にこもっているように感じる。
仕事内容:ボランティア(壁をはがす・洗いもの)	・「なげる」や「おだづなよ」(お母さんが子どもを叱る言葉?)を聞いた。
場所:気仙沼高校体育館	回答内容:
出身地:新潟県柏崎市	・言葉の語尾がもごもごしていて、早口。
性別・人数:女性1名	・聞き取りにくいけど、なんとなく意味は通じている。(確認しながら話している。)正確に聞き取れているかは怪しい。
期間・日程:2日目	
仕事内容:保健師(お年寄りのかた10人前後と面会)	・あまり口を開けない印象。50歳くらいの方までは(聞き取りは)大丈夫。 ・他県の間人と分かってお話して下さる。 ・他県の間同士だとなまっているかもしれない。女性の方が分かりやす ・ドアを開けていきなり「血圧ー」と言いながら入ってくる男の人。いきなり本題に入るような喋り方をされる。「役割分かってるでしょ」といった感じで。
場所:気仙沼高校体育館	回答内容:
出身地:新潟県佐渡市	・なんでも「どーも」ですませる。あいさつとしては日中すれ違うと「どーも」と返してくれる。
性別・人数:女性1名	
期間・日程:2日目	・あいさつは「おはよう」と言えば「おはよう」と返してくれる。
仕事内容:保健師(お年寄りのかた11人前後と面会)	



このパンフレットをご覧くださいる方へ

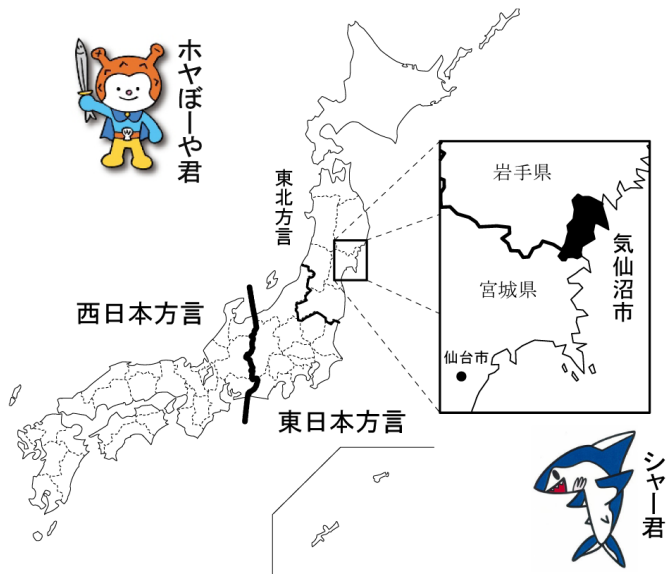
このパンフレットは、主に気仙沼地方の外から来られたボランティアや医療・行政関係者といった支援者の方々を対象に作成されています。現地の方との交流の中で、初めて聞く方言に戸惑ったこともあるのではないのでしょうか。気仙沼の方言をより理解するために、このパンフレットを役立てていただけたらと思います。

なお、このパンフレットは現地でいった支援者の方々へのインタビュー調査の結果をもとに、気仙沼の方言について簡単に紹介しています。

気仙沼方言の位置

気仙沼で話される方言は、全国から見ると東北地方の方言の特徴を持っています。

右の図のように、気仙沼は宮城県の北東部に位置する市で、岩手県南部の沿岸地域と地理的に連続しています。そのため、方言の特徴としては宮城県の言葉の他に、岩手県南部の沿岸地域の言葉とも共通した面があります。



気仙沼方言って、どんな方言??

気仙沼の方言にはどんな特徴があるのでしょうか。
分かりにくい点、注目すべき点についてご紹介します。

1. 発音

(1) シガスに聞こえる

シはスに、チはツに、ジはズに聞こえます。いわゆる「ズーザー弁」です。

「獅子(しし)」 }
「煤(すす)」 } 「スス」
「寿司(すし)」 }

「知事(ちじ)」 }
「地図(ちず)」 } 「ツズ」
「辻(つじ)」 }

気仙沼の地名だと、
「鹿折(ししおり)」が「ススオリ」
「鮎立(しびたち)」が「スピダツ」
に聞こえることがあるかも。



他にも、シュはス、ジュはズ、チュはツに聞こえます。
「手術(しゅじゅつ)」 → 「スズツ」

(2) カ行・タ行がガ行・ダ行に聞こえる

たとえば「開ける」は「アゲル」、「的」は「マド」のように聞こえることがあります。ちなみに、共通語の「上げる」や「窓」など、もともとの濁音は鼻にかかって聞こえます。

「開ける」 → 「アゲル」
「的(まと)」 → 「マド」

「上げる」 → 「ア^ンゲル」
「窓(まど)」 → 「マ^ンド」

支援者の方へのインタビューで得られた、音がこもって聞こえるという感想は、この鼻濁音によるものだと思う、チャー。



(3) キガチに聞こえる

キガチに聞こえることがあります。

「柿(かき)」 → 「カチ」
「来た(きた)」 → 「チタ」

支援者の方から聞いた話だと、「救急車が「チューチューシャ」に聞こえた。」という体験談があったよ。



2. 文法

(1) 「～サ」(共通語「～に・～へ」)

- 学校サ行く。(学校へ行く。)
- 仕事サ行く。(仕事に行く。)
- × 本サ買う。(本を買う。)

「～に」や「～へ」を、気仙沼では「～さ」と言うよ。「～を」の場合は使えないので注意、チャー。



(2) 「～ベ・～ッペ」(共通語「～だろう[推量]」「～しよう[意志]」)

- ・明日、雨だべ。(明日雨だろう。)
- ・みんなでがんばッペ
(みんなでがんばろう。)

「～だろう」と推量したり、「～しよう」と意志を表したりするとき、気仙沼では「ベ・ッペ」を使うよ。



(3) 「～ッコ」(身近にある小さい物を親しみを込めて呼ぶときに使う)

- ・そのひもッコ、取ってけろ。
(そのひもを取ってくれ。)

あめッコ(あめ玉)、花ッコ(花)、お茶ッコ(お茶)、ぼッコ(棒)も使う、チャー。



3. 間違いやすい単語

(1) 「ナゲル」(共通語「捨てる」)

- ・あどナゲねばわがねぞ。(もう捨てないとだめだ。)
- ・ナゲでおいでけろ。(捨てておいてくれ。)

(2) 「ダカラ・ホンダカラ」(共通語「(本当に) そうだね」)

- ー今日、暑いごとね。(今日は暑いね。)
- ーホンダカラ！(本当にそうだね。)

相手の話に強い同意を示すとき、「ダカラ」を使うよ。共通語の「～なので」と間違えやすいから注意してね！



(3) 「コワイ」「コエー」(共通語「疲れた」)

- ・コエーなあ。(疲れたなあ。)

(4) 「ワガンネ」(共通語「だめだ」)

- ・そんなごとやってワガンネヨ。(そんなことやってはだめだ。)
- ・寒ぐでワガンネ。(寒くてだめだ・仕方ない。)

使ってみよう！おススメの気仙沼方言！

○夕方から晩のあいさつ

「オバンデス」（こんばんは）

「[目上の人へ] オバンデゴザリス」（こんばんは）

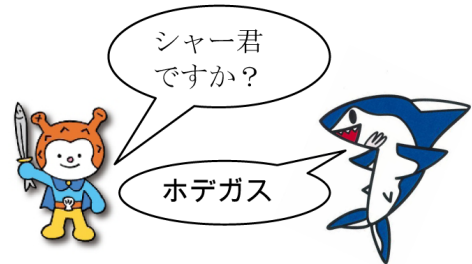
○別れのあいさつ

「サイナー」（さようなら）

「マタダイ」（また来てください）

「オスズガニ」（お静かに、おやすみなさい）

○そうです：「ホデガス」



病気や気分を表す語

看護師や保健師の方へ

「アンベア（按配）」：健康状態。

「サブキ」：咳。

「ハラピリ」：急な下痢。

「フケサメ」：病状がよく変わること。

「コザス」：病気をこじらせる。

「スッコグル」：皮膚をすりむく。

「イズイ」：違和感がある様子。

「ハカハカ」：息切れする様子。

「アフラアフラ」：ふらふらして元気がない様子。

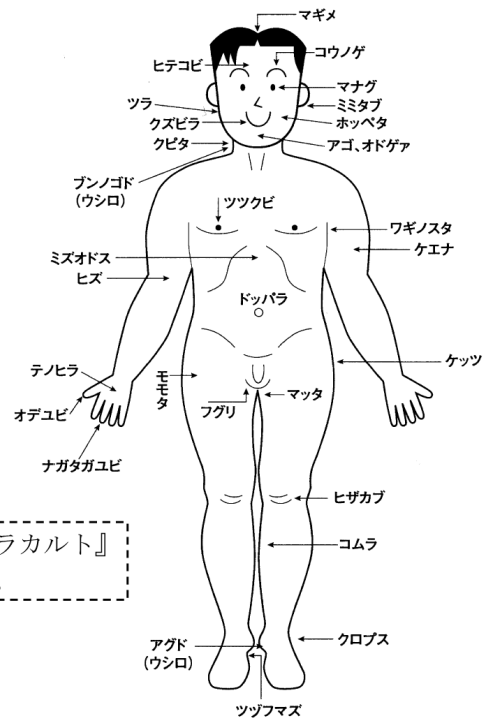
「ネダソラネエ」：寝た気持ちになれない様子。

「セラセラスル」：のどがいらいらする様子。

（セセラポイ）

菅原孝雄著『けせんぬま方言アラカルト』
三陸新報社をもとにしています。

気仙沼地方の人体呼称図



道具の名称

ボランティアの方へ

「クマデ」：鉄の歯がくし状に並ぶ道具。泥かきなどに用いる。一般的には大きいものをレーキ、小さいものをクマデと呼ぶ。気仙沼ではどちらもクマデ。

「ネコ」：一輪車（資材を運ぶ手押し車）

「バリ」：バール（釘抜きのような形の道具）

気仙沼市役所・教育委員会・地元関係者の皆様、そして気仙沼にいられた支援者の皆様からご協力を得て作成しました。

このパンフレットについてのご意見・ご感想をお聞かせ下さい！



支援者のための気仙沼方言入門

2011年8月27日 発行

作成：東北大学文学部国語学研究室

〒980-8576 仙台市青葉区川内 27-1

TEL・FAX：022-795-5987

E-mail：kobataka@sal.tohoku.ac.jp